

### 1.2.3. 回答者の属性

#### • 消化器内視鏡学会専門医向け調査

- 問1. 先生が主に働いている施設を選択してください。（○は一つ）
  - 調査対象とした日本消化器内視鏡学会専門医 2000 名の所属先については、学会名簿に基づいて分類をした。その際、大学病院や病院は「病院」に、診療所や検診センターは「診療所」に含め、それ以外を「その他」とした。
  - 所属の「その他」について、送付数より回収数が多い理由として、標本を抽出した時点と調査票に回答した時点での所属先のずれ、検診センター勤務の医師が「その他」を選択したことなどが考えられる。しかし、全体に占める割合は極めて小さいため、影響は殆どない。
  - 「病院」における、送付数と有効回収数のそれぞれの割合について、二項検定を行ったところ、P 値 = 0.13 であり、送付数と有効回収数のそれぞれの割合の間で有意な違いがあるとはいえない。
  - 「診療所」における、送付数と有効回収数のそれぞれの割合について、二項検定を行ったところ、P 値 = 0.41 であり、送付数と有効回収数のそれぞれの割合の間で有意な違いがあるとはいえない。

所属	送付数	割合 (%)	有効回収数	割合 (%)	回収率 (%)
病院	1390	69.5	695	67.3	50.0
診療所	596	29.8	320	31.0	53.7
その他	9	0.5	18	1.7	
不明	5	0.3	0		
合計	2000	100	1033	100	

- 問2. 先生が働いている病院の病床数を選択して下さい。（○は一つ）

病床数	有効回収数
400 床以上	275
200-400 床	196
200 床未満	204
合計	695

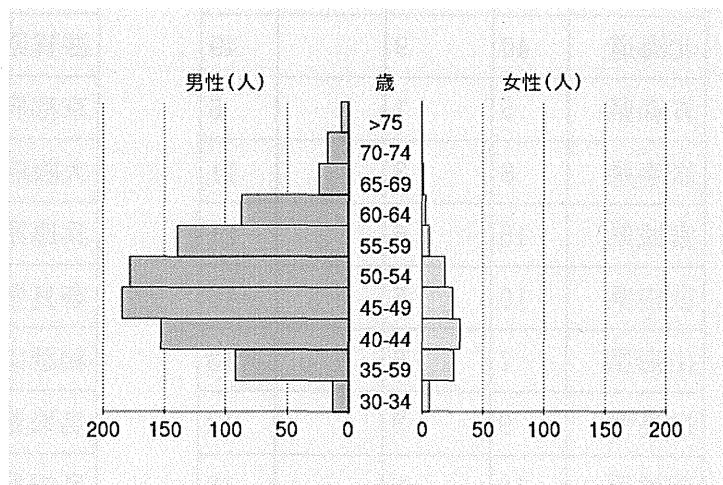
- 。 問3. 先生が働いている病院・診療所の所在地（都道府県）を記入してください。

所在地	病院	診療所	その他	合計
北海道	40	9		49
青森県	5	1		6
岩手県	8	3		11
宮城県	15	6		21
秋田県	10	5		15
山形県	7	6		13
福島県	9	3		12
茨城県	10	8		18
栃木県	9	6		15
群馬県	16	4		20
埼玉県	33	11		44
千葉県	23	10		33
東京都	77	44		121
神奈川県	49	25		74
新潟県	7	2		9
富山県	11	6		17
石川県	12	6		18
福井県	8	2		10
山梨県	6	7		13
長野県	12	6		18
岐阜県	10	7		17
静岡県	14	10		24
愛知県	22	13		35
三重県	6	3		9

所在地	病院	診療所	その他	合計
滋賀県	5	4		9
京都府	15	5		20
大阪府	56	17		73
兵庫県	23	14		37
奈良県	11	2		13
和歌山県	6	8		14
鳥取県	4	3		7
島根県	6	2		8
岡山県	15	3		18
広島県	16	7		23
山口県	7	1		8
徳島県	5			5
香川県	7	2		9
愛媛県	8	5		13
高知県	2	3		5
福岡県	33	14		47
佐賀県	2	1		3
長崎県	5	5		10
熊本県	8	6		14
大分県	11	2		13
宮崎県	4	3		7
鹿児島県	14	3		17
沖縄県	5	4		9
無回答	8	3	18	29
合計	695	320	18	1033

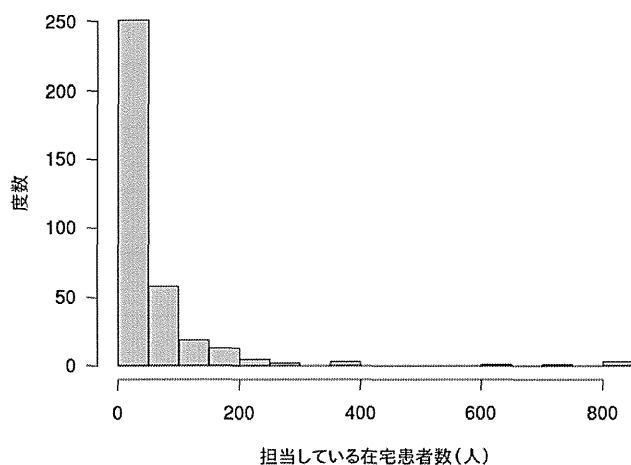
- 問4. 性別 (○は一つ)
- 問5. 満年齢 (○は一つ)

年齢階級	男性	女性	無回答	合計
30-34	13	6	1	20
35-39	92	26		118
40-44	153	31		184
45-49	185	25		210
50-54	178	19		197
55-59	139	6		145
60-64	87	3		90
65-69	24	1		25
70-74	17			17
>75	6			6
無回答	1		20	21
合計	895	117	21	1033



● 在宅療養支援診療所における医師向け調査

- 問1. 先生が担当している在宅患者の人数を記入してください。

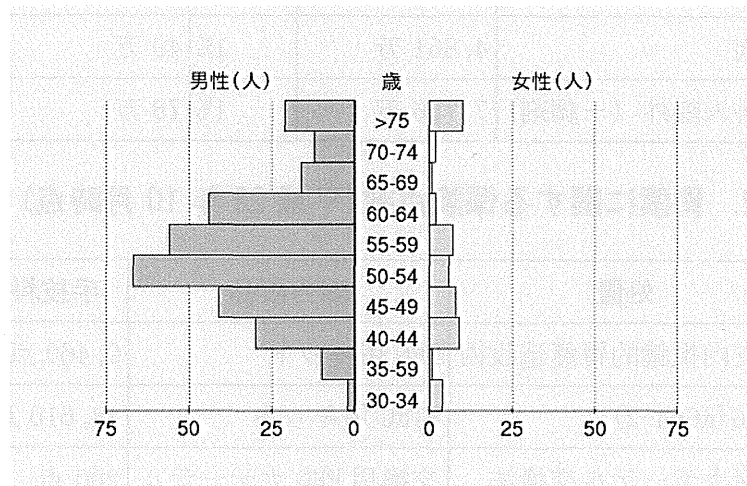


要約統計量	
最小値	0.00
中央値	18.00
平均値	48.47
最大値	800.00
回答者数	356
無回答者数	6
合計値	9547

。 問 2. 性別 (○は一つ)

。 問 3. 満年齢 (○は一つ)

年齢階級	男性	女性	無回答	総計
30-34	2	4		6
35-39	10	1		11
40-44	30	9		39
45-49	41	8	1	50
50-54	67	6		73
55-59	56	7		63
60-64	44	2	1	47
65-69	16	1		17
70-74	12	2		14
>75	21	10	2	33
NR			9	9
総計	299	50	13	362



## 2. レセプトのサンプリングデータセットからの調査

### 2.1. サンプリングデータセット

#### 2.1.1. 抽出対象

- ・ 平成 23 年度 10 月診療分、単月のレセプト情報である。
- ・ 医科入院・医科入院外・DPC・調剤に分かれている。
- ・ 医科入院外は、同一月および翌月の調剤レセプトと紐付されている。

### 2.1.2. 抽出方法

項目	全レセプト数	抽出率	抽出後レセプト数	抽出後データ容量
医科入院	140 万	10%	14 万	1.2GB
DPC	92 万	10%	9 万	1.6GB
調剤	4,851 万	1%	49 万	0.8GB
医科入院外（＋調剤）	7,756 万	1%	78 万	1.8GB（＋1.6GB）

### 2.2. 胃瘻に関する保険点数(平成 23 年 10 月時点)

処置	該当製品	手技料	特定保険医療材料費
経皮内視鏡的胃瘻造設術	PEG 用キット	9,460 点	請求不可(手技料に含まれる)
PTEG(K664-2)	PTEG 用キット	14,610 点	請求不可(手技料に含まれる)
胃瘻カテーテル交換法	交換用 PEG カテーテル	200 点	交換用胃瘻カテーテル
			バンパー型 GW あり 22,000 円
			バンパー型 GW なし 19,600 円
			バルーン型 8,440 円

- ・ 注 1：バンパー型は体内留置後 4 ヶ月以上経過、バルーン型は体内留置後 24 時間以上経過で保険適応。
- ・ 注 2：(J043-4)を算定するには、交換後の確認を画像検査又は内視鏡検査が必要であり、検査費用は別に算定可能。

### 2.3. 年間の胃瘻造設件数の推定方法

1. 経皮内視鏡的胃瘻造設術は入院して行われるため、医科入院・DPC レセプトのなかで、『経皮内視鏡的胃瘻造設術』が算定されている件数を調べる。
2. つぎに、『経皮内視鏡的胃瘻造設術』の件数を抽出率で割って、母集団における『経皮内視鏡的胃瘻造設術』の件数を推定する。
3. 毎月ほぼ同じ頻度で胃瘻が造設されると仮定して、2)で求めた件数に 12 を乗じれば、年間の胃瘻造設件数を推定できる。

胃瘻造設に関する実態調査

消化器内視鏡学会 専門医向け調査

宛名のご本人の方がご記入ください

<回答方法>

- ◆ 人数についての質問は、概数で結構ですので、ご記入ください。
- ◆ 選択式の質問では、最もあてはまる番号を選んで○をおつけください。
- ◆ ご回答は、質問の順番に従って、できるだけ最後までお願いします。

<返送方法>

ご記入頂きました調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、  
12月20日までにご投函くださいますようお願いいたします。

なお、調査結果はすべて統計的に処理され、個人情報明らかに  
されることは一切ありません。

平成24年12月

分担研究者 慶應義塾大学 医学部 医療政策・管理学 教授 池上 直己

【問い合わせ先】

慶應義塾大学医学部 医療政策・管理学教室

助教 池田 漠 (いけだ ばく)

住所：〒160-0016 東京都新宿区信濃町 35

TEL：03-3353-1211(内線 63732)

FAX：03-3225-4828 (月～金：9：00～17：00)

E-mail：baku@a2.keio.jp

平成24年度 厚生労働科学研究費補助金  
(地域医療基盤開発推進研究事業)

「在宅拠点の質の向上に資する、活動性の  
客観的評価に関する研究」

はじめに、先生ご自身についてお尋ねします。

問 1. 先生が主に働いている施設を選択してください。(○は一つ)

- (1) 病院
- (2) 診療所
- (3) その他

以下の質問には回答せず、  
**返信用封筒で郵送してください。**

問 3 に進んでください。

問 2 に進んでください。

問 2. 先生が働いている病院の病床数を選択してください。(○は一つ)

- (1) 400 床以上
- (2) 200 床以上 400 床未満
- (3) 200 床未満

問 3. 先生が働いている病院・診療所の所在地（都道府県）を記入してください。

\_\_\_\_\_（都道府県）

問 4. 性別（○は一つ）

- (1) 男性
- (2) 女性

問 5. 満年齢（○は一つ）

- |    |         |    |         |   |         |
|----|---------|----|---------|---|---------|
| 1  | 25－29 歳 | 2  | 30－34 歳 | 3 | 35－39 歳 |
| 4  | 40－44 歳 | 5  | 45－49 歳 | 6 | 50－54 歳 |
| 7  | 55－59 歳 | 8  | 60－64 歳 | 9 | 65－69 歳 |
| 10 | 70－74 歳 | 11 | 75 歳以上  |   |         |

認知症と思われる患者に対する胃瘻の適応について、問6・問7でお尋ねします。  
最もあてはまる選択肢をそれぞれ一つ選んでください。

問6. 認知症のすすんだ患者に胃瘻の適応を検討するにあたり、以下ア～キの臨床状態は  
どれだけ重要だと考えますか。

	極めて重要である	中程度に重要である	さほど重要でない	全く重要ではない	分からない
ア 反復する誤嚥性肺炎	1	2	3	4	5
イ ベッドサイドで行う嚥下評価で誤嚥の危険性がある	1	2	3	4	5
ウ 嚥下造影検査で誤嚥の危険性がある	1	2	3	4	5
エ 褥瘡の発生	1	2	3	4	5
オ 10%以上の体重減少	1	2	3	4	5
カ 低アルブミン血症	1	2	3	4	5
キ 不十分なカロリー摂取	1	2	3	4	5



問 7. 認知症のすすんだ患者に胃瘻の適応を検討するにあたり、専門職として判断するうえで  
以下ア～クの項目をどれだけ重要だと考えますか。

	極めて重要である	中程度に重要である	さほど重要でない	全く重要ではない	分らない
ア 患者の QOL を改善すること	1	2	3	4	5
イ 飢餓によって苦しむのを防ぐこと	1	2	3	4	5
ウ 脱水によって苦しむのを防ぐこと	1	2	3	4	5
エ できるだけ延命すること	1	2	3	4	5
オ 科学的根拠に基づいた医療を実践すること	1	2	3	4	5
カ 主に本人の意向	1	2	3	4	5
キ 主に介護してきた家族の方の意向	1	2	3	4	5
ク 主に介護してきた方以外の家族や親族の意向	1	2	3	4	5

先生が携わっている胃瘻造設の状況についてお尋ねします。

問 8. 最近、1 年間で胃瘻造設を行いましたか。(○は一つ)

- (1) はい
- (2) いいえ

以下の質問には回答せず、  
返信用封筒で郵送してください。

問 9 に進んでください。

これからの質問に対しては、おおよその数値で教えてください。

該当する患者がない場合は、0と記入して、空欄にしないでください。

直近1年間で、胃瘻を造設した患者についてお尋ねします。

ただし、各設問では、1ヶ月あたりの平均患者数を記入してください。

問9 胃瘻造設を行った患者数

\_\_\_\_\_人/1か月間

問10 (1) 問9のうちで、胃瘻造設を目的として院外から紹介された患者数

\_\_\_\_\_人/1か月間

(ア) (1)のうちで、紹介元別の患者数

① 診療所 \_\_\_\_\_人/1か月間

② 病院 \_\_\_\_\_人/1か月間

③ 介護保険施設 \_\_\_\_\_人/1か月間

(イ) (1)のうちで、紹介元から胃瘻のタイプ（バルーン・バンパー）について指定された患者数

\_\_\_\_\_人/1か月間

(ウ) (1)のうちで、認知症があると思われた患者数

\_\_\_\_\_人/1か月間

(エ) (1)のうちで、胃瘻を抜去して経口摂取に戻れる見込みのあった患者数

\_\_\_\_\_人/1か月間

(2) 問9のうちで、胃瘻造設以外の目的で入院し、入院中に胃瘻造設が必要となった患者数

\_\_\_\_\_人/1 か月間

(ア) (2)のうちで、退院先から胃瘻のタイプ（バルーン・バンパー）について指定された患者数

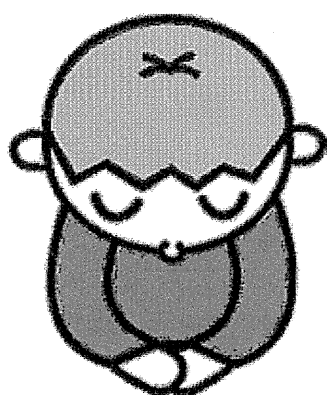
\_\_\_\_\_人/1 か月間

(イ) (2)のうちで、認知症があると思われた患者数

\_\_\_\_\_人/1 か月間

(ウ) (2)のうちで、胃瘻を抜去して経口摂取に戻れる見込みのあった患者数

\_\_\_\_\_人/1 か月間



ご協力くださり、  
ありがとうございました。

## 胃瘻造設に関する実態調査

# 在宅療養支援診療所における医師向け調査

### <回答方法>

- ◆ 常勤されている先生ごとに各自ご回答ください。
  - ◇ 調査票が不足した場合は、下記の問い合わせ先まで不足分をご請求いただくか、お手数をお掛けしますが、不足分をコピーしていただければと存じます。
- ◆ 人数についての質問は、概数で結構ですので、ご記入ください。
- ◆ 選択式の質問では、最もあてはまる番号を選んで○をおつけください。
- ◆ ご回答は、質問の順番に従って、できるだけ最後までお願いします。

### <返送方法>

ご記入頂きました調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、12月20日までにご投函くださいますようお願いいたします。

なお、調査結果はすべて統計的に処理され、個人情報明らかにされることは一切ありません。

平成24年12月

分担研究者 慶應義塾大学 医学部 医療政策・管理学 教授 池上 直己

### 【問い合わせ先】

慶應義塾大学医学部 医療政策・管理学教室

助教 池田 漠 (いけだ ばく)

住所：〒160-0016 東京都新宿区信濃町 35

TEL：03-3353-1211(内線 63732)

FAX：03-3225-4828 (月～金：9：00～17：00)

E-mail：baku@a2.keio.jp

平成 24 年度 厚生労働科学研究費補助金  
(地域医療基盤開発推進研究事業)

「在宅拠点の質の向上に資する、活動性の  
客観的評価に関する研究」

はじめに、先生ご自身についてお尋ねします。

問 1. 現在、先生が担当している在宅患者の人数を記入してください。

\_\_\_\_\_人

問 2. 性別（○は一つ）

(1) 男性

(2) 女性

問 3. 満年齢（○は一つ）

1 25－29 歳

2 30－34 歳

3 35－39 歳

4 40－44 歳

5 45－49 歳

6 50－54 歳

7 55－59 歳

8 60－64 歳

9 65－69 歳

10 70－74 歳

11 75 歳以上

認知症のすすんだ患者に対する胃瘻の適応について、問4・問5でお尋ねします。  
最もあてはまる選択肢をそれぞれ一つ選んでください。

問4. 認知症のすすんだ患者に胃瘻の適応を検討するにあたり、以下ア～キの臨床状態は  
どれだけ重要だと考えますか。

	極めて重要である	中程度に重要である	さほど重要でない	全く重要ではない	分からない
ア 反復する誤嚥性肺炎	1	2	3	4	5
イ ベッドサイドで行う嚥下評価で誤嚥の危険性がある	1	2	3	4	5
ウ 嚥下造影検査で誤嚥の危険性がある	1	2	3	4	5
エ 褥瘡の発生	1	2	3	4	5
オ 10%以上の体重減少	1	2	3	4	5
カ 低アルブミン血症	1	2	3	4	5
キ 不十分なカロリー摂取	1	2	3	4	5

問5. 認知症のすすんだ患者に胃瘻の適応を検討するにあたり、専門職として判断するうえで以下ア～クの項目をどれだけ重要だと考えますか。

	極めて重要である	中程度に重要である	さほど重要でない	全く重要ではない	分からない
ア 患者の QOL を改善すること	1	2	3	4	5
イ 飢餓によって苦しむのを防ぐこと	1	2	3	4	5
ウ 脱水によって苦しむのを防ぐこと	1	2	3	4	5
エ できるだけ延命すること	1	2	3	4	5
オ 科学的根拠に基づいた医療を実践すること	1	2	3	4	5
カ 主に本人の意向	1	2	3	4	5
キ 主に介護してきた家族の方の意向	1	2	3	4	5
ク 主に介護してきた方以外の家族や親族の意向	1	2	3	4	5



これからの質問に対しては、おおよその数値で教えてください。  
該当する患者がいない場合は、0と記入して、空欄にしないでください。

胃瘻をつけた在宅患者についてお尋ねします。

問6. 先生が担当している在宅患者のうちで、現時点で胃瘻をつけている方は何人いますか。

\_\_\_\_\_人

問7. 直近1年間で、胃瘻を抜去して経口摂取に戻れた在宅患者は何人いますか。

\_\_\_\_\_人

問8. 直近1年間で、新規に胃瘻を造設した在宅患者はいましたか。(○は一つ)

- (1) はい  
(2) いいえ

以下の質問には回答せず、  
返信用封筒で郵送してください。

問9に進んでください。

これからの質問に対しては、おおよその数値で教えてください。  
該当する患者がいない場合は、0と記入して、空欄にしないでください。

問9. 直近1年間で、胃瘻を造設した患者について、各設問の患者数を記入してください。

(1) 先生の判断で胃瘻造設のために、他院に紹介した患者数

\_\_\_\_\_ 人/直近1年間

(ア) (1)のうちで、造設を行う病院に対して胃瘻のタイプについて指定した患者数

① バルーンタイプ \_\_\_\_\_ 人/直近1年間

② バンパータイプ \_\_\_\_\_ 人/直近1年間

(イ) (1)のうちで、認知症があると思われる患者数

\_\_\_\_\_ 人/直近1年間

(2) 他院の先生の判断で胃瘻を造設され、他院から紹介されてきた患者数

\_\_\_\_\_ 人/直近1年間

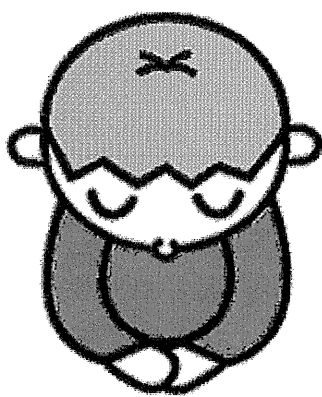
(ア) (2)のうちで、造設を行う病院に対して胃瘻のタイプについて指定した患者数

① バルーンタイプ \_\_\_\_\_ 人/直近1年間

② バンパータイプ \_\_\_\_\_ 人/直近1年間

(イ) (2)のうちで、認知症があると思われる患者数

\_\_\_\_\_ 人/直近1年間



ご協力くださり、  
ありがとうございました。

胃ろう造設に関する実態調査  
事務担当者様向け調査票

貴院の概要についてお尋ねします。

(1)	所在する区市町村を記入	区 市 町 村
(2)	いずれかを選び、病床があればその数を記入	1. 有床診療所（届出病床数：_____床） 2. 無床診療所
(3)	医師の人数を記入	1. 常勤 _____人 2. 非常勤 _____人
(4)	在宅療養支援診療所としての算定の有無	1. あり 2. なし



ご協力くださり、  
ありがとうございました。